

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 NPO法人おおさかこども多文化センター

1. 事業の趣旨・目的

日本で生活する上で必要な日本語を学び、また、在籍する高等学校での授業についていける日本語の習得を進め、充実した学校生活を送り、自立できるようにする。

日ごろ孤立しがちな生徒と一緒に日本語学習を通じて知り合い、交流する機会の提供

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月25日	PiaNPO 会議室	柳澤 勤 吉田 芙美 安田 乙世 梨木 亜紀 村上 自子	今年度の高校生の日本語講座の趣旨、方針、プログラム、参加募集方法、講師の人選、会場について	今年度の講座の基本方針の確認、担当者の人選、講座の日程調整、講師の人選、大阪大学真嶋研究室との連携、会場の選定、参加者募集方法、案内チラシの作成について討議する
6月18日	PiaNPO 会議室	柳澤 勤 吉田 芙美 安田 乙世 梨木 亜紀 村上 自子	見学先阿倍野防災センターの見学について	見学内容について、集合場所の確認、引率者の確認、ワークシートの作成、防災ビデオの内容確認
7月8日	PiaNPO 会議室	柳澤 勤 吉田 芙美 安田 乙世 梨木 亜紀 村上 自子 寺尾美登里 澤田 幸子	夏の高校生の日本語集中講座の内容、講師、講師補助の人選教材について	夏の講座のテーマである防災日本語の教材作成、防災センター見学ワークシート作成、参加生徒の日本語力を知るための口頭試問作成、防災以外のテーマについて、病気になったら、アルバイト探し、面接の受け方、電話応対について教材作成・授業内容の確認、講師補助の仕方について

10月11日	PiaNPO会議室	柳澤 勤 吉田 芙美 安田 乙世 梨木 亜紀 村上 自子	10月29日の防災センター見学と1日日本語講座について	参加者の広報、見学当日の役割分担、引率者の確認、見学終了後日本語講座実施場所への引率について、防災日本語について ワークシートの内容確認 その他の見学場所の選定
12月13日	PiaNPO会議室	柳澤 勤 吉田 芙美 安田 乙世 梨木 亜紀 村上 自子	冬の講座の内容、講師、講師補助について	住まいのミュージアム見学の手順とボランティアによる館内案内と日本語補助について。見学のワークシート作成について、参加者のグループ分け、24日の見学ふりかえ授業内容について、作文指導の方法について
2月27日	ヒューライツ会議室	吉田 芙美 安田 乙世 澤田 幸子 樋口裕子 村上 自子	春の講座の内容、個別日本語指導、クラス分け、講師、講師補助について	クラス分けの方法について、個人別指導の教材、3日間のカリキュラムについて、各授業のテーマ、内容について、講師補助の仕方について、作文・発表のテーマについて。

【写真】



3. 日本語教室の開催について

① 講座名： 高校生のための日本語講座

1、夏期高校生のための日本語講座、一日高校生のための日本語講座、冬期高校生のための日本語講座、春期高校生のための日本語講座

② 開催場所： 大阪市民交流センターなにわ、大阪市立阿倍野防災センター、阿倍野生涯学習センター、住まいのミュージアム、大阪市港区民センター

③ 学習目標:

1. 生活に必要な日本語の習得
2. 学校の教科学習に対応できる日本語の習得
3. 体験学習を通じた日本語の習得
4. 日本の社会制度・歴史・地理・文化・習慣等に関する知識の習得
5. 少数点在する生徒同士の交流の場の提供
6. 一人で交通機関を利用して移動できる

④ 使用した教材・リソース: 自主作成教材、日本語敬語トレーニング、中級に行こう、みんなの日本語初級トピック25、できる日本語、私の文法ノート、「つくる」漢字教材を作るすぐに使える活動ネタ集

⑤ 受講者の募集方法

NPOおおさかこども多文化センターのHP掲載、全大阪府立高校に電子媒体配布、日本語指導が必要な生徒が在籍する高校の担当者にチラシを郵送、高校生交流会、府立高校教頭会、WaiWaitーク会場などで説明、チラシ配布、府内の国際交流協会、地域の日本語教室などにチラシを郵送、メーリングリストで広報

⑥ 受講者の総数 35 人

(出身・国籍別内訳: 中国 25人、韓国 1人、ペルー 1人、ベトナム 1人、ネパール 2人、アフガニスタン 2人、タイ 1人、ロシア 1人、フィリピン 1人)

⑦ 開催時間数(回数)

11日(講座数 35 内体験学習は3講座、個別指導3講座)

一般講座は一コマ各1.5時間 体験学習は3.5時間2講座、4時間1講座、個別指導は各2時間

講座数32 X 1.5時間 + 11時間 = 65時間

夏期講座5日間、秋の特別講座 1日間、冬期講座 2日間、春期講座3日間の集中講座

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者数	内容
①	7月25日 10:30~12:00 1講座	1.5時間	11人	ネパール語(2人) 中国語(5人) 韓国語(1人) ダリ語(2人) ベトナム語(1人)	教授者 2人 補助者 5人	自主教材使用 日本語レベルを知るためのプレースメント、日本語環境をのしるためのアンケート記入

②	7月25日 13:00～16:30 2講座	3時間 2クラス	11人	ネパール語（2人） 中国語（5人） 韓国語（1人） ダリ語（2人） ベトナム語（1人）	教授者 2人 補助者 5人	午前中のプレースメントにより、 クラスを2つに分ける。 授業内容は防災日本語と共通だが、日本語レベルに合わせた自主教材を作成して指導をする。上級クラスは漢字指導を多くとり入れる。また生徒が活発に授業に参加できるように、ゲームや実習を取り入れる。
③	7月26日 13:00～16:30 1講座	3.5時間 1クラス	9人	ネパール語（2人） 中国語（5人） 韓国語（1人） ベトナム語（1人）	教授者 2人 補助者 6人	大阪市立阿倍野防災センター見学 と日本語学習、ワークシートの完成、 防災用語の説明
④	7月27日 13:30～17:00 2講座	3時間 2クラス	9人	ネパール語（2人） 中国語（5人） 韓国語（1人） ベトナム語（1人）	教授者 2人 補助者 5人	アルバイトの探し方、面接の仕方、 電話対応
⑤	7月28日 13:30～17:00 2講座	3時間 2クラス	9人	ネパール語（2人） 中国語（5人） 韓国語（1人） ベトナム語（1人）	教授者 4人 補助者 6人	日本の地理、生徒の出身国の紹介、 都道府県の名前、大阪府、大阪市 について、現在すんでいる場所の 確認 病気になったらをテーマに、
⑥	7月29日 13:00～17:00 2講座	3時間 2クラス	8人	ネパール語（2人） 中国語（4人） 韓国語（1人） ベトナム語（1人）	教授者 2人 補助者 4人	防災センター見学を通じて、考えた ことや思ったことを作文にする。 作文をみんなの前で発表する。
⑦	10月29日 12:30～ 1講座	4時間 1クラス	4人	中国語（3人） フィリピン語（1人）	教授者 1人 補助者 1人 ボランティア	緊急地震情報とその対応のビデオ をみる。 防災センターで、地震発生時の対応、 消火の練習、通報の練習、応急手当の 練習、大地震の体感、防災日本語の 学習

					3人	見学後、防災日本語の説明、防災についての意見、見学の感想を書く
⑧	12月23日 1講座	3時間半 1クラス	7人	中国語7人	教授者 1人 補助者 4人	『住まいのミュージアム見学』180年前の大阪の町並みを再現したミュージアムで説明を聞きながら、ワークシートを記入する、日本の伝統的な遊び、コマ回し、羽子板、剣玉等で遊ぶ、
⑨	12月24日 2講座	3時間 1クラス	7人	中国語7人	教授者 1人 補助者 3人	見学の振り返りを映像をみながら、語彙・日本語表現・内容を確認をして、ワークシートを完成する。それを参考に作文を書き、皆の前で発表をする。参加生徒全員で坊主めぐりをする
⑩	3月15日 10:30~12:30 1講座	2時間 1クラス	2人	ロシア語1人 タイ語1人	補助者 3人	個別指導
⑪	3月15日 13:30~17:00 2講座	3時間 2クラス	23人	中国語19人 スペイン語1人 タイ語1人 ロシア語1人 ベトナム語1人	教授者 2人 補助者 5人 ボランティア 1人	プレースメントテストを兼ねた自己紹介 初級（9人）敬語の使い方の説明と実際につかった対話の練習 上級（13人） 自分の性格からみた職業選択についてを考える、発表
⑫	3月16日 10:30~12:30 1講座	2時間 1クラス	7人	中国語5人 ベトナム語1人 ロシア語1人	補助者 4人	個別指導
⑬	3月16日 13:30~17:00 2講座	3時間 2クラス	19人	中国語17人 ベトナム語1人 ロシア語1人	教授者 2人 補助者 5人	初級 7人 オノマトペ、数字の読み方、読解（日本の物語）・再話 上級 12人 数字の読み方、雇用に関するデータを読む、様々な雇用形態についての読解、話しあい

⑭	3月17日 10:30～12:30 1講座	2時間 1クラス	1人	ロシア語1人	補助者 3名	個別指導
⑮	3月17日 13:30～17:00 2講座	3時間 1クラス	15人	中国語13人 ベトナム語1人 ロシア語1人	教授者 2人 補助者 6名、 ボランティア 2人	初級・上級合同で『私の10年後』 について作文を書く、発音指導、 全員の前でプレゼンテーションを する

⑨ 特徴的な授業風景（2～3回分）



4. 事業に対する評価について

(1) 当初の学習目標の達成状況

1. 様々な府立高校から、異なった母語の生徒が、交流しながら日本語指導を学べる機会は、参加生徒にとって、いろいろな意味で刺激になった。

2. 年の近い大学生と話す機会ができたので、大学進学に対するイメージを持つことができた。

3. Cabin Attendantを希望している生徒がボランティアとして参加してくれた現役のCAと出会い、仕事の内容や就職に必要な条件などを実際に聞くことができ、将来のイメージが膨らんだ。

4. 講師補助で中国からの留学生が入ってくれて、中国の大学の様子や日本の大学の比較など、情報を得ることができた。

5. 大学の留学生に日本語を教えている教員に日本語指導を受けることで、高校での日本語指導とは異なった指導内容で日本語を学習する経験をした。

6. 「10年後の私」を日本語を使ってプレゼンテーションをすることにより、将来の方向性を客観とらえなおす機会となった。

7. 春期講座では、4月入学する新1年生と在校生が交流することで、新一年生は高

校生活の具体的なイメージを持つことができ、自信となった。

(2) 学習者の習得状況

- ① 東北地方大震災もあり、日本で暮らしていくのに必要な防災知識および防災にほんごを体験を通じて学ぶことができた。
- ② 約 200 年前の大阪の暮らし（衣食住）を体験することにより、日本の文化習慣を学ぶことができた。
- ③ 自分の言葉で語る経験を通じ、将来のイメージを具体的に描く機会を得た。

(3) 日本語教室設置運営の効果、成果

短期間の日本語指導では、十分な効果は望めないが、高校生活で日本語学習をするにあたってのレジネス形成やモチベーションの強化になったと思う。学校で学ぶ日本語指導とは別の観点（生活者として必要とされる日本語および日本の常識、文化・習慣）で日本語を学ぶことで、自分の日本語に対する気づきがあったと思う。また、体験を通じて、知識と同時に日本語を学んだので、具体的に語彙や表現が身についたと思う。

参加した生徒からのアンケートによると、①異なった学校、いろんな国からの生徒と一緒に日本語を学べることができ、楽しかった。②新しい友達ができ、大学の先生に日本語を教えてもらい、刺激になった。③将来の進路について、具体的に学ぶことができた。④地震を中心に防災を学ぶことができて良かった。⑤ 体験学習で日本の古い生活や遊びを知り、日本の歴史に興味をもった。

また、講師補助として参加してくれた大学生からのアンケートでは、大阪の高校で学ぶ日本語指導の必要な生徒がいることを知った。どのように日本語を教えたらいいのかを講師補助として学ぶことができた。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果

地域の子どもを対象とする日本語教室、『こどもひろば』『サタディクラス』『こどもほっと』や、府内の市町村教育委員会、および国際交流センターと生徒の募集や、指導内容についての情報交換をすることで、より具体的に、日本語指導を必要とする高校生の支援に役立った。

(5) 改善点、今後の課題について

- a) 現状 年々、大阪府立高校では日本語指導の必要な高校生が増えている。数字であがっているだけで 300 名近い生徒が日本語指導を必要とされている。日本語指導、母語指導の授業が組み込まれているカリキュラムを持つ大阪府

b) 今後の課題

- (ア) 経済的に恵まれない家庭の生徒が多いので、会場までの交通費の負担が大きい。
- (イ) 連続して講座を開催するために、交通の便がよくて、安い使用料で貸してくれる公

共の場所が、今の大阪には少ない。場所の確保は年々困難になっている。学校の空き教室の利用も考えたが、施設の安全管理の点で利用は不可能。

(ウ) 個別指導において、自分の日本語力に課題を感じない生徒への適切な教材をどうするか。

(エ) 少数点在校に在籍するダブルリミテッドの可能性の高い生徒を、いかにプログラムに参加させるか。

(オ) 大阪では、交通の便がよく、安価に借りられる会場が少ないため、会場確保が困難。

c) 今後の活動予定, 展望

この「高校生のための日本語講座」を単年度の活動にするのではなく、行政の教育システムに組み込んだ恒常的なプログラムにしていくよう提言したい。